

第 1 6 5 0 回島根県教育委員会会議 会議録

日時	令和6年7月9日
自	14時30分
至	16時40分
場所	教育委員室

I 議題の件名及び審議の結果

－公開－

(議決事項)

第7号 県立学校の教育職員及び市町村立学校の教職員の特殊勤務手当に関する規則の一部改正について（総務課）

第8号 令和7年度島根県公立高等学校入学者選抜の基本方針について（教育指導課）

—————以上原案のとおり議決

(報告事項)

第12号 島根県教育委員会教育長の任命同意について（総務課）

第13号 不登校に関するアンケート調査について（教育指導課）

第14号 島根県社会教育委員の改選について（社会教育課）

第15号 島根県立図書館協議会委員の改選について（社会教育課）

—————以上原案のとおり了承

－非公開－

(議決事項)

第9号 教職員の懲戒処分について（学校企画課）

第10号 いじめの重大事態調査報告書(案)について（教育指導課）

第11号 令和7年春の叙勲候補者の推薦について（保健体育課）

—————以上原案のとおり議決

(協議事項)

第3号 令和7年度全日制県立高校の各圏域における入学定員について（学校企画課）

—————以上資料により協議

Ⅱ 出席者及び欠席者

1 出席者【全員全議題出席】

野津教育長 朋澤委員 河上委員 原田委員 生越委員 黒川委員

2 欠席者

なし

3 島根県教育委員会会議規則第14条の規定に基づく出席者

京谷副教育長	全議題
木原教育監	全議題
渡部教育次長	公開議題
森山参事	公開議題
大場教育センター所長	公開議題
野々内総務課長	全議題
清水(明)総務課調整監	公開議題
和田教育施設課長	公開議題
中西学校企画課長	公開議題
吉岡県立学校改革推進室長	公開議題
勝部働き方改革推進室長	公開議題
小林教育指導課長	公開議題
小室義務教育推進室長	公開議題
石橋幼児教育推進室長	公開議題
岩田地域教育推進室長	公開議題
高倉子ども安全支援室長	公開議題
八束特別支援教育課長	公開議題
太田保健体育課長	公開議題
土江社会教育課長	公開議題
山崎人権同和教育課長	公開議題
村上文化財課長	公開議題
藤原世界遺産室長	公開議題
間野古代文化センター長	公開議題
安部福利課長	公開議題
伊藤教育センター教育企画部長	公開議題

4 島根県教育委員会会議規則の規定に基づく書記

山本総務課課長代理	全議題
山崎総務課課長補佐(人事法令)	全議題
溝口総務課主任主事	全議題

Ⅲ 審議、討論の内容

野津教育長 開会宣言 1 4 時 3 0 分

公 開	議決事項	2 件
	承認事項	0 件
	協議事項	0 件
	報告事項	4 件
	その他事項	0 件
非公開	議決事項	3 件
	承認事項	0 件
	協議事項	1 件
	報告事項	0 件
	その他事項	0 件
署名委員	河上委員	

— 公 開 —

議決第7号 県立学校の教育職員及び市町村立学校の教職員の特殊勤務手当に関する規則の一部改正について（総務課）

○野々内総務課長 （資料を一括説明）

質問意見なし

———原案のとおり議決

議決第8号 令和7年度島根県公立高等学校入学者選抜の基本方針について（教育指導課）

○小林教育指導課長 （資料を一括説明）

質問意見なし

———原案のとおり議決

報告第12号 島根県教育委員会教育長の任命同意について（総務課）

○野々内総務課長 （資料を一括説明）

質問意見なし

———原案のとおり了承

報告第13号 不登校に関するアンケート調査について（教育指導課）

○高倉子ども安全支援室長（資料を一括説明）

○原田委員 本当に素晴らしいアンケートを島根県が取り組まれたと率直に感じた。子どもたちが苦しんでいるときの生の声というのが伝わってきた感じがして、これを不登校支援につなげていくことが大事なことだと痛感している。わたしは、家庭を考えてみたときに、不登校の子どもたちが、多くの時間を過ごしていたのが、家庭、自宅であるというのがあった。そこで、立ち直るきっかけになったところの何項目かには保護者、親のサポートなどがあった。気になるのが、嫌だったことの中に、保護者への説明、要するに自分の思いや考えを無視されて対応されたというところに注目しなくてはならないと思う。おそらく県教委としては学校教育に対して校長会や生徒指導のところで指導や研修を充実させていくと思うが、一家庭に対してこの声がどこまで届くのかなということを感じる。例えば、ホームページを見てくださいと言っても、それは限られた方しか見る機会がない。私はせっかく学校でそういう会をやるのなら、大きな単位で、PTA総会でこれを参考にしながら、子どもの思いがあるし、家庭で苦勞して、わが子のことなので、一生懸命取り組

んでいるけども、そういった何かプレッシャーみたいな、本当に嫌だったんだよというような生の声が届くことが、親さんも気付きの一つにつながるのではないかという気がしている。家族の方々や共に苦しんでいらっしゃる方々が、より近く、このアンケート調査結果を身近に感じて、これを家族で取り組んでみようかなとか、こういった関わりはまずあったかな、よかったかなと。立ち直すきっかけは、家族だったわけなので、それがこう伝わることを、これから考えていく方法みたいなのが、あるだろうか。

○高倉子ども安全支援室長 まず、教職員が意識を変えることが一番大きなことだと考える。保護者と関わっていく中で、教職員が従前の学校から見た不登校の要因と捉え、保護者に伝えていくことで、保護者が苦しむケースというのがあるかと思う。そうしたところから、まず、教職員がこのアンケート結果を正しく理解した上で、不登校に関わる部分がいかに難しいかということ。それと、先ほど委員がおっしゃったように、自分を受け入れてくれることで、不登校だった子どもたちが救われている、嬉しかったというふうに回答していることがあったので、是非、そういうところは意識をしていきたいと考えている。そうした中で、その保護者に伝えていく方法の一つとしても、この結果は島根県で任用しているスクールカウンセラーとも共有をしていく。不登校の相談を受けたときに、ケースケースに応じながら、今こういった状況にあるのではないかと。その保護者さんとしては、おそらく焦りみたいなものがあるって、それが子どもにプレッシャーになっていくというような状況もあるかと思う。共有が必要な時期であれば、そういったことをカウンセラーからも伝えられるような仕組みも整えていきたいと考えている。

○生越委員 感想だが3つある。私は子どもの無気力とか、不安というものが不登校の原因になる要因で一番多いのだというふうな認識があり、この結果がものすごくショックで、びっくりだった。いじめる要因は自分にもあったり家族にもあったり学校にもあるという中で、相手を認めるということはすごく大事ではないかと思う。どうしても自分と違うものを排除してしまう傾向があるような気がする。あとは、他人にあたることで自分の心にある「もやもや」を発散させてしまうこともあるのかなと思うが、みんな違ってみんないいと言われるが、そこをまず家庭から、どうしても大人も違うことを容認できなかったりする部分が自分も含めてあるが、そうじゃないよということをまず家庭から、そして学校、社会全体で、気持ちの持ちようを変えていかないといけないと思う。いじめることは絶対いけないよということをずっとずっと言っていないといけないと思った。

それから、2つ目が教職員との関わりという点で、不登校の要因になるのも教職員の先

生であるが、相談する相手も先生、不登校になって連絡をもらったときに嫌だと思えるのも先生であるが、嬉しかったと思えるのも先生だったりするということで、やはり先生方の言葉は、威力があるという言い方はよくないかもしれないが、子どもにとってはとても大きい。もちろん個々の先生の思いとか、考えを正直にぶつけることも、表現することも大事だと思う。それを言ったことで、子どもはどう思うのかなと一瞬立ちどまって、考えてから発言していただけるといいのかなと思った。

3つ目として、不登校の生徒が学校に行くことになったきっかけが、自分の将来を考えて決めたというのは、そこがすごく私はいいなあと思った。前向きになれて、これを見て希望が見えたと思った。不登校の内容は全体的に重いテーマの中で最後に希望の光が見えたと一瞬思ったが、その希望を持って学校に戻った子どもたちを、社会、学校、保護者が上手に支えていけるような環境整備をしていくことが非常に重要で、務めなのだというふうに思った。具体的に何をどうしたらいいか案が全然出せないのが申し訳ないが、そういうような感想を持った。

○高倉子ども安全支援室長 今回の感想についてであるが、基本的に多様性を認めるというところが非常に必要なことだと思う。子どもにとって、教職員の言葉がすごく重たいということはまさしくおっしゃるとおりだと思っている。アンケート結果から、不登校に関わる上では個別の状況に応じた非常に繊細な部分があるということも浮き彫りになったかと思う。一対一での関わりではなくてチーム学校として、体制を組んで関わっていくということも非常に大切なことだということが見える調査結果となっているので、まずは学校としてのチーム、体制を整えて、みんなで関わっていきましょうということも伝えていきたいと考えている。

○黒川委員 このアンケート結果は、不登校になる子たちの回答した不登校になった原因と学校での考え方が違うというところが、けっこう衝撃だった。何が原因で不登校になるか分からないというところも、このアンケート結果でも分かった。また、学校に行こうと自分で決めて今学校に通っているという状況があるということが、とても嬉しく感じた。このアンケート結果は、学校の先生方にはお知らせするというふうに聞いていて、ホームページでも周知されるということだが、不登校の生徒たちと向き合うNPO法人やPTA総会、保護者さんにもお知らせしていただきたい。今悩んでいる保護者さんなり、子どもさんに届くように、今、トンネルの暗い、暗い、真ただ中で悩んでいる子たちに、この結果が届いたらいいなというところが感想である。なので、ぜひ周知の方をお願いする。

○高倉子ども安全支援室長 この調査結果を広く関係する方々に伝えていくこと自体が、このアンケート結果の役割の一つだと思っている。様々な機会を通じて周知に努めていきたいと考えている。

○朋澤委員 様々なところに周知すると言われたが、具体的にどのように周知されるのか。

○高倉子ども安全支援室長 既に市町村教育委員会を通じて学校に伝えている。また、今後スクールカウンセラーに伝えるということをはじめとして、教育支援センターにも市町村教育委員会から伝えてもらうようお願いしている。保護者さんの方には、小学校、中学校のホームページ掲載に協力を得られる市町村があれば、お願いをして掲載してもらうというような形で伝えていければと考えている。

○朋澤委員 これだけの数字が挙がっている。そして周りの小中学校を見ても、どんな小さな学校でも学校に行けないお子さんがおられるのは何となく地域にも伝わっている。だから、学校の先生方も単なるデータ、アンケート結果ではなくて、自分事としっかり思っていていただいて、不登校にならないためには、こういうことに留意しなくてはいけないということをしっかり感じていただけたらと思っている。また、不登校になられた場合には、島根県は女性の就業率が高いので、家庭のことを顧みたとき、母親の1人として考えたときに、わが子が学校に行けなくなったら家庭の中もしんどい。だったら、親支援も学校で担っていただかなくてはいけないことも多いと思うので、学校の先生方、大変だとは思いますが、先ほどのチームという言葉が出たがより強い体制を整えていただいて、島根県から1人でも不登校の児童生徒の皆さんがおられなくなることを願っている。私事として捉えていただけるような周知の仕方でもよろしく願いする。

———原案のとおり了承

報告第14号 島根県社会教育委員の改選について（社会教育課）

○土江社会教育課長 （資料を一括説明）

質問意見なし

———原案のとおり了承

報告第15号 島根県立図書館協議会委員の改選について（社会教育課）

○土江社会教育課長 （資料を一括説明）

質問意見なし

———原案のとおり了承

野津教育長 閉会宣言 16時40分